

第3回 京都大学宇治キャンパス産学交流会 ～防災研究所～ (平成23年12月16日開催)

京都大学宇治キャンパスを核として、府南部地域を中心に産学連携・企業連携を進めるため、同大学の4つの研究所(化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所)との産学交流会(研究シーズ発表・研究所施設見学と企業プレゼンテーション)を開催しています。今回、防災研究所との交流会を開催しました。

◆研究シーズ発表

京都大学防災研究所井合進教授から「地震液状化被害の数値シミュレーションにおける産学交流」について、同米山望准教授から「大震災の教訓を生かした津波氾濫挙動の予測手法」について紹介をいただきました。

●「地震液状化被害の数値シミュレーションにおける産学交流」

液状化による構造物被害予測の数値シミュレーション解析技術は、産官学連携の研究体制により、幅広く地震防災に向けた現場サイド実務に応用され、さらに、従来の学会体制の枠を超える新たな連携活動モデルとなっている。



防災研究所 井合進教授

液状化対策は、構造物主体から性能主体へ(性能設計の本格化)、地震動から地震作用へ、また複合災害(地震+津波+水害)へと展開されてきている。

●「大震災の教訓を生かした津波氾濫挙動の予測手法」

これまでの津波防災では、津波氾濫時の浸水範囲・浸水高さを実測し、その被害に備えてきた。今回の大震災で分かったこととして、想定津波の精度向上及び防波堤を越える津波の挙動予測が今後必要な研究。



防災研究所 米山望准教授

防波堤を越えた津波氾濫挙動の予測には、いままですら十分検討されていない津波速度・メカニズム解明が重要であり、三次元解析を多用する必要がある。

◆企業プレゼンテーション

(株)ディー・イー・シー、(株)京都福田より企業の紹介をいただきました。

●生命の家づくり (株)ディー・イー・シー

人・材・技・時・家は生命あるものが誕生し受け継がれる場。何十年後も住む人とともに呼吸し、成長する家づくり、未来を育てる家づくりに取り組む。



(株)ディー・イー・シー 森本均代表取締役

燻煙熱処理炉を完成させ「木材の形状・寸法安定化技術として最先端+低炭素社会を実現する技術の一つ」である燻煙熱処理を実践する。

京都の伝統産業から先端技術まで、知恵と技術を集結させた「京エコハウス」への取り組み。

●生コンクリートのはなし (株)京都福田

暮らしの中であらゆる所に使用、生活に不可欠な存在となっているコンクリート。

産業廃棄物、高炉スラグ、石炭灰の微粉を混ぜる等環境保護にも役立つセメント。

養生期間の短縮を可能にするコンクリート舗装(早期解放



(株)京都福田 松本政博営業部副部長

1DAY舗装コンクリート)、リサイクル繊維質混和剤を使用した(セルクリート)、生コンクリート+顔料で可能にする(カラーコンクリート)等「新しいコンクリート」への取り組み。

◆防災研究所施設見学

防災研究所の遠心力載荷実験装置を見学させていただきました。



施設見学風景

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
けいはんな分室

TEL:0774-95-5027 FAX:0774-98-2202
E-mail:keihanna@mtc.pref.kyoto.lg.jp